授業科目　生理学実習Ⅰ

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語
宮岡 洋三、蘆田 一郎	開講時期	後期	必修・選択	必修・必修・必修
	単位数	1	時間数	30

【概　要】

本科目では、人体の機能について実験的に学ぶ。自分自身あるいは同級生を対象にして、感覚系や運動系あるいは循環や呼吸などの機能に関する基礎を習得する。なお、動物を対象とする実験は、「生理学実習Ⅱ」で実施する。講義では、主に「頭」を使って知識を獲得するのに対して、この実習では、「手」をはじめ「身体」全体で学習する。

本科目への参加は、インターネット経由による実習資料の入手に始まる。さらに、「レポート」提出のために文章作成ソフトならびに表計算ソフトの使用に習熟する必要があり、かつ「発表会」へ向けたスライド作成ソフトの使用およびプレゼンテーション技術の習得も併せて必要となる。

【学習目標】

1. 「生理学実習」用のウェブサイトにアクセスして、実習資料を入手する。
2. 入手した実習資料を基に、実習遂行に必要な知識を整理する。必要ならば、図書館などで参考図書に当たり、資料を適宜加工する。
3. 各実習の冒頭にある「小試験」によって、整理した知識の完成度を知る。
4. 実習に参加して（【履修上の留意点】を参照）、「身体」を通しその内容を把握する。
5. 実習終了後、「データ検討会」において「レポート」や「発表会」の着眼点を吟味する。
6. 実施内容をレポートとしてまとめ、提出する。レポートの適切さに関する評価を受ける。
7. 「生理学実習」用のウェブサイト上に掲載されるコメントを参照にして、レポート作成の問題点を知る。
8. 発表会に備えて、スライド作成を通して、プレゼンテーション技能を身に付ける。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	実習ガイダンス　実習の流れ（予習・小試験・実施・レポート・発表会）の説明		実　習
2	体性感覚　皮膚感覚点の検索、二点弁別閾値の測定		実　習
3	特殊感覚　舌味覚閾値の測定、PTC感受性の検査		実　習
4	循環機能　血圧の測定、心電図(ECG)の記録・解析		実　習
5	呼吸機能、運動機能Ⅰ、高次脳機能Ⅰ　肺活量・1秒率の測定、表面筋電図(EMG)の記録、反応時間の測定		実　習
6	合同発表会　3学科（理学・作業・言語）の全グループによる実験データの発表および討論		実　習

【使用図書】	＜書名＞　＜著者名＞　＜発行所＞　＜発行年・価格・その他＞
教科書	「生理学実習」ウェブサイト
参考書	生理学に関する各種の書籍が本学の図書館に用意されているので、自主的に参考にして欲しい。
その他の資料	各種のビデオも本学の図書館に用意されているので、それらも自主的に参考にして欲しい。

【評価方法】

「出席」、「小試験（毎回実施）」、「データ検討会（毎回実施）」、「レポート」、ならびに「発表会」の結果を積算評価する。

【履修上の留意点】

「生理学実習」ウェブサイトには、先輩が作成・提出したレポートに対する大量のコメント集があるので、「共有財産」として末永く、積極的に参照して欲しい。

なお、客観性と公平性の確保が困難な「実習態度」は評価の対象としないが、明らかに他人の迷惑となっている場合には、退室を求めることがある。